

From Students

CBTを経験して改めて感じた
歯科医師になることへの自覚

小山 美香 (大学4年)

今回、CBTを経験して、改めて歯科医師となることを強く自覚しました。CBTの勉強は大変ではありましたが、この勉強を通して、今までの学習の整理ができ、さらに、自分自身の苦手な分野を見つけ出すことができました。今後、私たち学生が臨床の現場において勉強させていただく上で、患者さんのご理解と信頼を得るために、このCBTの勉強で得たことは有用で、かつ不可欠な知識になると感じています。



OSCEを終えた今、感じること

小野 由湖 (大学4年)

気づけば梅香る季節となっていた。これほど一年の巡りを早く感じたことはない。先日OSCEを終え、登院実習を目前にしている。こうして無事終えることができたのも、先生方の丁寧なご指導があったからこそだと確信している。これから臨床の場での一步を踏み出すのだと思うと、身の引き締まる思いがすると同時に机上では学べない新たな学びが楽しみでもある。医療人としてあるべく姿を模索しながら邁進していきたい。最後に、OSCE運営に携わったすべての方にこの場を借りてお礼申し上げます。



保護者様からのメッセージ

FROM PARENTS

よく考えて

最近、歯科界についてのあまりいい話を耳にすることがありません。資格試験から選別試験へと形を変え難化する国家試験、歯科医師数の過剰など、学生にとっては将来に不安を抱く話ばかりだと思います。

しかし歯科医師という職はやりがいがあります。食べることは生きることであり、同じ食卓で家族が同じ食事を一緒に食べることに幸福の原点があると思います。その食に密接に関係しているのが歯科医師です。また歯科の将来として、歯周病と糖尿病、脳梗塞症との関係や無歯顎・義歯未装着者と認知症との関係、歯髓細胞がips細胞の最適な供給源であることなどが解明されて、医科などの他業種と連携して行うことが多くあります。

今年の一月、日本歯科医師会は厚生労働省に対して、国家試験について、全身疾患に対応できる為の出題構成と選別試験の是非(禁忌肢問題のあり方や相対的に一定の不合格者を決める相対基準方式)の再検討を要望しています。これは大学が早くから掲げている『口腔医学』の理念と重なり合います。

未来は闇雲に歩いていっても向こうからは来ません。社会は変化します。要求も変わってきます。よく考えて、行動に移してほしい。そうすることで、今何をしなければいけないかが解ってきます。

親として、歯科医療、大学の先輩として、未来を開拓し、地域社会に貢献する口腔医になってほしいと思う、今日この頃です。



松村 幸治 様
(父兄後援会・鹿児島県支部長)

福岡歯科大父兄後援会福岡中央支部
卒業生を送る会に出席して

福岡歯科大学父兄後援会・福岡中央支部では3月6日、卒業生を送る会を行いました。卒業生の他、谷口先生、湯浅先生、在校生、保護者40名ほどが集まり、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。私も福岡歯科大6期生中央支部出身です。学生の頃、父兄や先輩方と2次会で中洲に行ったことを思い出しました。いい友人、先輩、先生など、めぐり会い、知りあえた多くの人々が財産になると思います。

今の学生達は本当に勉強し頑張っていると思います。しかし、歯科医師国家試験は資格試験から選抜試験になってしまいました。私は間違っていると思いますが、資格試験に戻りそうもありません。歯科大生にとって歯科医師国家試験は最大の目標ですが、歯科医師として見ると、国家試験はただの通過点に過ぎません。大切なことは、早い時期から歯科医師になるという自覚を持つこと、そして自主的に勉強ができる環境が必要であると思います。

私はこれまで3年間、福岡歯科大父兄後援会の監事を務めさせていただきました。中会長から日高会長、理事、評議員の父兄の方と知り合うことができ、また、こんなに素晴らしい会があることを知ることができ、感謝しています。父兄後援会は学生が6年間、留年なく全員国家試験に合格することを目指しています。父兄後援会支部懇談会の出席状況については、平成22年度は64.2%でした。国家試験が選抜試験である以上、私たち父兄も協力が必要だと思います。

重ねて申し上げますが、学生達は頑張っています。大学の先生方、また学生に年の近い先輩先生方、これからも御指導御協力のほど、よろしくお願いいたします。



國廣 新一 様
(父兄後援会)